



ファッション・ワークショップ2009

リ・ファッション

「リ・ファッション」は、自分でもできること。
 リ・ファッションは、自分でもできること。
 リ・ファッションは、自分でもできること。



鈴木 純子

(すずき・じゅんこ)

1965年8月、茨城県日立市生まれ。システムエンジニアや経営コンサルタントなどを経て、96年4月に企業のマルチメディアやインターネット関連業務を請け負う有限会社アプロディーを設立。ファッションビジネスに関する勉強会を通じて知り合った仲間と09年9月に一般社団法人「日本リ・ファッション協会」を設立し、代表理事に就任。問い合わせは協会事務局のアプロディー(03・5942・3028)。

サイズが合わなくなったりいつの間にかクローゼットにしまったままの服を自分好みによみがえらせる「お直し」。その普及に取り組む一般社団法人「日本リ・ファッション協会」(東京都中野区、鈴木純子代表理事)が、毎日新聞社と共催でリ・ファッション作品のコンテストを実施することになった。代表理事の鈴木さんに取り組みへの抱負を聞いた。

なぜ「リ・ファッション」なんですか。

「以前、企業のウェブ制作のお手伝いをしていたころ、クリーニングチェーンの会社の方から「ネットでビジネスができないか」と相談され、ネットで注文を受けて衣替えで当分着ない季節ものの服をシーズンオフにお預かりするサービスを始めました。季節による需要の波をお預かりサービスで平準化することが狙いでしたが、お店への問い合わせの多さに驚きました。中にはクリーニングとは関係のない相談まで含まれていました。皆さん限られたお住まいのスペースで、愛用の服やご両親から託された衣類をどのように管理するかに頭を悩ませているんだなと思いました。こうした思い出の品をうまく使っていく知恵がリ・ファッションです」

協会ではどのようなことに取り組んでいるのですか。

「まずリ・ファッションに関する情報提供を行っていきます。専用サイト「リ・ファッションアベニュー」を準備中。リメイクやオーダーメイド、クリーニングなどの専門店を調べることができるようにします。次にこうした取り組みを推進する人材を育成すべく資格認定事業を行う予定です。ほかにも、ファッションに関するCSR事業に取り組んでいきます。私たちは消費者と事業者の間に立って、両者を結びつけるような働きをしていきたいと考えています」

これまでに3回、リ・ファッションに関するワークショップを開いています。

「皆さんの作品を展示したり、思い出のつまった服を持ち寄って交換会を開いたりしています。7月4日を「0704(おなおし)の日」として開催した昨年のワークショップでは、北海道や四国、九州など全国から800人の方にご参加いただきました。参加者は40代以上の女性が多いですが、若い女性や男性も開催を重ねるにつれて増えてきています。やはり、クローゼットにいっぱいになった服をどうしたらいいかわからずに情報を求めて参加された方が多いようです」



交換会で使用したカードには持ち主のこだわりがぎっしり

参加者の反応はどうか。

「お年を召した方でも服のお直しについて意外に知らないことがあるようです。例えば、上着やコートは帽子になるし、ネクタイはスカートに作り変えることができる。それが思ったよりおしゃれにまとまるということなどをワークショップでじかに見ることができます」

コンテストをやってみたかったそうですね。

「発表の場を提供することにより、若い人たちの関心も高まってくると思います。これまでも専門学校の卒業制作などで一部の学生がリ・ファッションを使ったデザインを発表することはありましたが、リ・ファッションの知恵そのものが試されるコンテストはありませんでした。リ・ファッションは自分だけではなく、服を提供してくれた方々との関係性も考えながらデザインしなければなりません。そうしたことを面白いと感じてくれば、このコンテストを開催する意義があるというものです」

どのように進めるのですか。

「1月26日から2月22日にかけてリ・ファッション作品コンテストに向け、MOTTAINAI STATION & Shopで店頭回収します。詳しくは協会HP(<http://www.refashion.jp/>)をごらん下さい」

【聞き手・山本雄】